

日本の今

先日、「円の実力が50年前の水準に落ち込んだ」との新聞記事がありました。先週話した景気によりお金の価値が「上がる」「下がる」と同じように、円の価値は他国のお金と比べ「上がり」「下がり」します。例えば、1ドル=100円であったものが、1ドル=120円になったとします。日本で作られる100円の商品は海外では1ドル以下で購入できることとなります。逆に、今まで100円で購入できた海外商品が120円出さなければ買えなくなるということです。

では、50年前の日本はどんな時代だったのでしょか？50年（半世紀）前は1ドル=308円。沖縄が日本に返還され、上野動物園にパンダが来た。海外旅行に行けば近所で話題になり、多くの人々がテレビにくぎ付けとなっていた時代です。



それでも、円安を歓迎した時代でした。輸入品は値上がりしても、日本経済を支える輸出企業が製品を海外に安く売ることができたからです。結果、企業がもうかれば給料が上がり、物価が上昇しても人々の暮らしは豊かになりました。私が生まれた年はそんな勢いのある時代でした。

今は、海外でも物価が上昇し、10ドルで買えたものが、12ドル、13ドルと高くなっています。このことも影響して、円の価値を更に下げ、日本でのモノの値段を上げています。日本の製品は海外で売れていますか？給料は上がっていますか？経済を理解することは大切です。

ものづくりに携わる皆さん。日本はエネルギーを含め、ものづくりに必要な材料や部品、商品を海外から輸入しています。その輸入コストが上がっている現状で、消費者は何を求めていますか。商品の「品質」「付加価値」「値段」など、たくさんの要素がありますが、皆さんは何だと思えますか。良いものをつくるということと同じように、売れるものを作ることも、ものづくりの底力です。

ぶらり、あらこう散歩

必死に勉強している様子ですが授業中ではありません。全日制、定時制ともに学年末考査開始前の朝の様子です。

「家でやってきたのか」との投げかけに、「はい、でも、忘れちゃいそうなのです」と心配げに言う生徒。その後ろでは、テスト範囲のプリントが終わっていない生徒！！「終わってないのかよ」と聞くと、「だから今一生懸命やっているのです。」と声をかけるなどと言わんばかりに準備に集中。

定時制でも、オームの法則を基本とした計算問題を友達が一生懸命に説明。近い友達の言葉は分かりやすいですね。その説明は、もしかしたら先生の教えよりも覚えやすいかもと思ってしまいました。それでも、「おいっ！」って突っ込む、教える生徒。「だって・・・」と教えられる生徒。双方成長しています！

協働して成長だ！荒工生！

「未来を創る！彩る！荒川工業」

